

# おれんじニュース

No283

2013年10月号



8月29日(木) 青き立山・剣を見ながら天狗の大下りにかかる 写真提供 あしび山の会 田中氏

今月号の記事	五木村のキャンプと6座登頂、花咲盛と冠ヶ岳、白馬～不帰ノ嶮～唐松岳縦走 阿蘇の一ノ峰・二ノ峰
--------	---

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年10月	2013年11月	時 間	場 所
運営委員会	9日(水)	13日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館
全体集会	23日(水)	27日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館

## 2013/10 月の山行



部	技術研修部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月・日	10月6日(日)	10月11日(金)	10月20日(日)	10月25日(金)～ 27日(日)
山名(行事)	経ヶ岳	大平山(330.6m)	阿蘇 中岳と 倶利伽羅谷	祖母山(1756.4m) 尾平コース
地 図	多良岳	佐賀県伊万里	阿蘇山・根子岳	祖母山・見立
集合場所	西諫早駅 8:00	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 10:00
難易度	やや健脚	初心者	やや健脚	中級健脚
帰着時間	17:00	17:00	19:00	21:00
歩行時間	5h	3.5h	4.0h	5h～7h
交通手段	マイカー	マイカー	マイクロバス	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	1日目・山小屋(ホシ コガ) 2日目・九合目山小屋
温泉	無し	有り	有り	有り
参加費	1000円	1000円	5000円	20000円
申込期限	随時	定員なり次第	定員なり次第	定員なり次第
集約	山下	林	佐原	田中
備考	夏のアルプスに 向けて訓練登山 です。	秋の草花を見に 行こう、マツムシ ソウ等	倶利伽羅谷の紅 葉 wev で人気の穴 場スポット	紅葉観賞登山です。ゆ っくりと紅葉狩りし ましょう。!
感想文提出	10/16	10/21	10/30	11/7

### ☆県連ニュース☆

#### \* ジオパーク地質見学会

日時：10月20日(日) 午前8時・市民会館集合

参加費：2500円(予定)

#### \* 第3回「いつだって花盛り」in 論所原(秋の雲仙を楽しみつつ、高岩山へ登ろう)

日時：10月27日(日) 午前8時・県庁裏門(マイクロバス、マイカーも可)

帰着：午後5時予定

参加費：マイクロバス、キャンプ場使用料他(詳細は後日) 申込み 10/10 まで事務局へ

## 2013/11 月の山行



部	技術研修部	山行部	自然保護部	ひまわり
月・日	11/2(土)~3(日)	11/9(土)	11/17(日)	11/22(金)
山名(行事)	韓国岳・えびの岳	黒峰	琴の尾岳	古処山
地 区	霧島温泉・韓国岳	緑川・鞍岡	大村	甘木
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:10	西諫早駅 7:00
難易度	初級&中級	初級	初級	初級&中級
帰着時間	11/3 20:00	20:00	16:00	20:00
歩行時間	3h, 5h	2 h	3 h	4 h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	公共交通機関	マイカー
宿泊施設	みやま荘	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り	有り	?	?
参加費	16000 円	5000 円	交通費のみ	3000 円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	随時	定員になり次第
集 約	佐原	田中	中里	林
備 考	佐原さんの米寿を祝福する登山です。	比較的に短時間で登れるブナ林の奥山。紅葉もありでしょう。	ミカン狩りができるかもしれません。	秋を見つけに秋月に行ってみましょう。 秋月の歴史に触れてみましょう
感想文提出	11/13	11/19	11/27	12/2

### \*九プロ「元気の出る集会」

日時：11月23日(土)～24日(日)

場所：大分県豊後高田市 香々地青少年の家

費用：宿泊費(朝、夕食込み)3500円 他(交通費等)

23日予定 山岳信仰の歴史・スライドと講演

分散会 ①山々の花・スライド上映 ②セルフレスキュー ③プラネタリウムで星座の学習

④中高年の為のストレッチ体操や気を付けること

各県のお国自慢・推薦するオラが山 など

24日予定 ①文殊山 ②両子山 ③仁王様鑑賞の寺巡りとお寺の精進料理

④無名の橋樁堂のハイキング ⑤鋸山津波戸山(岩場あり)

(参加申込は 事務局 兵庫へお願いします)

## 2013年8月/9月の山行報告



8月19日(月)～20日(火)

### 五木村キャンプと6座走破

(三方山 1236.1m・高塚山 1508.2m・国見岳 1030.8m・六本杉山 1148.5m・白髪岳 1244.3m・国見山 1271m)

(参加者) 川原、中里、間ノ瀬、松岡、下釜、佐原、國分、林(孝子)、山下 (9名)

(行程)8/19 西諫早駅 5:35－島原外港 6:30－熊本港 8:10－大通公園 10:00 國分さん合流－白蔵峠 12:15 昼食－三方山 13:02－高塚山 14:54－大通公園バーベキュー開始 19:20

8/20 テント撤収 8:00－国見岳 8:31－六本杉山 9:17－白髪岳 10:56－国見山 12:15－宇城道の駅 3:00 解散式－熊本港 3:50－諫早 6:30

(感想) 西諫早駅発。予定より少し遅れたけど、道路が空いていたので、焦ることはありませんでした。車窓から見えた雲仙の裾野から上がる御来光に感嘆の声が上がりました。また、空気が澄んでおり普賢岳が美しいたたずまいを見せてくれました。

九州商船のフェリーで熊本港に向けて島原外港を出発しました。昨日までは、お盆帰りの特別料金だったけど、本日からサービス料金となっており、ラッキー！と心の中で喝采を挙げました。計画を立てた方は、素晴らしいよみでした。無事にフェリーに乗船でき、車から降りて客室に向かおうとしていると、突然「ヴィヴィヴィ……」というすごい音が聞こえるではありませんか！ 何事ならんと、キョロキョロして辺りを見渡すと、Y氏の車の警報ではあり

りませんか！車内を覗き込むとS氏が閉じ込められ、中から鍵を開けようとしておられたため、盗難警報装置が作動してしまったのです。それにしても、すごい音でした。盗難防止にはきっと効果がありますね。

島原港の九十九島が朝陽を浴びて美しく映えるなか、たくさんの漁をする小舟と波止場の釣り人に送られて出航！そして、各人船内で朝食を済ませました！もちろん、名物の多比良竹輪も食べました。

五木村と熊本市の中央部を結ぶ重要な峠だった大通峠公園に着き、五木焼の窯元である方の手づくり工房「どんぐり」を見学させていただきました。そこには、陶芸作品や椎茸なども並べられており販売もしておられました。

佐世保出身の方だということで、親しみが湧き、珈琲碗を買いました。

また、6か月かけて作られたというツリーハウスがあり、カフェ「リーフ」が樹上で営まれていました。なんとも羨ましい暮らしぶりでした。

*{百日紅ツリーハウスに憩いたり}*



三方山登山をするために白蔵峠を目指していたら、五木の子守唄公園を過ぎたあたりで、待ち合わせ場所で出会えなかったK氏が後ろについておられるのに気付きました。そのとたん、崖から落ちた石が散乱している山道で落石を踏んでしまい、右前輪をパンクさせてしまいました。携帯電話や無線が通じない場所だったために、K氏に先行するY車への連絡を頼むとともに、タイヤ交換に取り掛かりました。この作業に堪能なM氏がいらっしゃったお蔭で、意外に早くスペアタイヤの装着ができました。

白蔵峠で昼食。

三方山登山開始と同時に、背丈ほどもある萱の藪漕ぎとなりましたが、すぐに歩きやすい自然道となりました。木陰を渡る風の涼しさを心地よく感じ、どこからともなく聞こえる小鳥の鳴き声に心奪われながら歩きました。倒木についた苔に木洩れ日が当たり、美しく清々しい森の中を進むと、あっという間に1236mの三方山頂上に着きました。



それから、この日2座目の高塚山登山口に到着しました。

この山は、今回の六座の中の最高峰で、1508mあります。が、登り出しが1200mを超えているので、そんなに高度を感じません。

ここからも木陰の自然林の中、小鳥の声を聴きながら、歩きやすい登山道を進み、長崎では見ることのできないブナ林の中を珍しい思いで見回しながら進み、1508mの高塚山に着きました。

{秘境でも滴る汗や千メートル}

途中のガソリンスタンドでタイヤのパンク修理をお願いしたところ、修理できない部分の破損なので交換が必要とのことでした。他のメンバーは、ここで翌日の昼食を購入したりしていましたが、我々は、日田のタイヤ館まで行って交換することになり、車を走らせました。15:50に到着しタイヤ交換をしてもらっている間に、翌日の昼食の購入をしました。

急いで戻らないと、テント張りや夕食の準備に間に合わないと思い、急いだんですがラッシュ時でもあり中々進みませんでした。気が焦ってるだけに、キャンプ地である大通峠が遠かったこと！辺りは、だんだん暗くなってきて、道路わきには野生のサル2匹が出没してきました。暗くなってきた車内では、大通峠を探す地図が老眼なしでは見えない！と笑いあったり、残留したメンバーは、絶対に先に食べたり飲んだりしているはずだ！あのメンバーで待っているということは考えられないと言い合ったり、ついには、万が一にも飲み食いを始めず待っていたら、逆立ちして大通峠を歩くと言う人がいたりして、急ぎました。やっとの思いで辿り着くと、何と！テント張りも食事の準備も済んでるのに、じっと暗闇の中で待ってくれたのです！



これは凄いことですよ！このメンバーのレベルの高さは並ではない！ 思いを新たにし

た一日でした。

キャンプの夕食は、バーベキューでした！

我が家にあった炭やバーベキューセットを持っていきました。

{夏山に賑わいいずるバーベキュー}

今回はテントの使いぞめとなるはずだったのですが…タイヤのパンクというハプニングに襲われ、張り方の実習はできませんでした。さすがに新しいテントは工夫が随所に施されており、居住性は抜群でした。

{鹿の糞踏みて秘境のキャンプかな}

## 8月20日(火)晴

御飯に味噌汁、そして蒲鉾などで朝食を済ませ、テントの撤収や荷物の積み込みをして国見岳登山口へ出発しました。

国見岳登山口を出発し、8:30には1032mの頂上に立ちました。

次は、9:23に「六本杉山」に到着しました。

そこから白髪岳の登山口までは結構時間がかかりました。

10:41に白髪岳への登山を開始し10:56山芍薬がある石灰岩の山頂に到着しました。

下山して行動食をとりつぎの登山口に向かいました。

そしていよいよ最後の六座目、国見山への登山開始です。

12:15日陰つつじの群落がある頂上に着きました。ここには、山名や高さなどの表示板はありませんでしたが、航空測量のための旗が翻っていました  
やっと六座走破が完了し、大通公園にいったん戻り熊本港へ直行しました。

道の駅で解散式を行い、國分さんとお別れです。

九州商船フェリーに待ち時間もなくスムーズに乗れました。

19:00西諫早駅を経て荷物整理を済ませ、解散しました。

本日走行179.7キロで総計434.7キロの長距離キャンプ山行でした。(中里 記)

## 8月24日

### 花咲盛 冠ヶ岳(1154m)

(参加者) 中須賀、鎗水、福岡、兵庫、川内、下釜、林(孝子)、林(和子)、山下、林田、山口  
(11名)

(行程) 西諫早駅 6:30—松橋熊本 I C—花咲盛 11:20(散策)・・(昼食)—地蔵峠登山口 13:30—冠ヶ岳頂上 14:40—温泉—諫早着

(感想)

薄っすらと青空が覗いていたが、嬉野のトンネルを抜けたあたりから厚い雲が立ち込め時折の雨、気分も重い。しかし、南熊本に入った所で雨も上がり、ここ数日日照り続きだった森、草原がうその様に一気に息を吹き返し、瑞々しい緑が私たちを歓迎してくれた。まさに、阿蘇

の懐の大きさ、気持ちも明るくなった。

ロマンチックな名、「花咲盛」に到着。背後に小高い丘のある草原に小さな小屋。上品な初老のご夫婦が出迎えてくださった。まるで「大草原の家」、日常でない映画の場面にいるような不思議な気持ち。阿蘇の絶滅危惧にある野の花を未来へ継ぐためのご夫婦の思い。

この一念と自然の中に溶け込んだ優しさが表情に溢れていた。Y氏曰く「奥様は、晩年のオードリー・ヘップバーンに似ている」と、白い帽子をかぶり、キュートで存在感を感じさせるものがあった。

小屋の前には、何とも一言では言い表すことができない深い色合いの花々、その中でも、私の背丈ほどもある女郎花が凛として特に私の眼を引いた。他にも白い端正なレース模様のシシウド。小さくてかわいい紅紫色のゲンノショウコ。薄紫のシオン。暗紅色の吾亦紅。等、・・・。



そこに、ブルー・ビーが紫色の花を好んで近寄ってきた。感激・・・。小さな透明感のあるブルーのハチ。黄色いモンシロチョウも舞っている。幼い時の童話の世界にいる気分。それから

一列にならんで両脇の野の花の説明を受けながら丘の方へ登って行った。奥様も熱心に説明して下さり、途中ヒゴタイの大株を前に記念撮影。聞いても直ぐ忘れるのよねと言いながら質問しているHさん、「宵待ち草」を前に歌が飛び出す程、みんな、少年、少女に戻った気分。もちろん、「高麗トモエソウ」は、大陸と陸つづきであったことを証明するもの等、等、学術的に貴重なお話もあり歴史を身近に感じる事ができました。

時期的に良かったことや、前日の雨の恵みで花々が一段と清楚で、生き生きしており、また、上品な中にそれぞれが自己主張し存在感に満ち溢れている感じられた。私にとって、野の花に興味、関心が持てたことが今回の大きな収穫でした。

そして、また、季節を異にして再来したいと思いつつ、「花咲盛」を後にし、冠ヶ岳にむかった。雨が降りそうな気配の中、登山開始。地蔵峠あたりにマツムシソウの小群落に出会い、ほっと一息。標高 1100m をアップ、ダウン殆どなしで健脚組には物足りない様子。

頂上あたりで雨が降り出し見通しは全く効かず。草原の絶景は来月の山行への楽しみにして下山となった。

予定どおり進行し、かなり練られた山行、中須賀部長さん、他山行部の皆様の御苦勞に深く感謝いたします。優しい気持ちで帰路に就くことができました。有り難うございました。



(林 和子記)

8月26日～9月1日

## 白馬岳～不帰の嶮～唐松岳縦走

(参加者) 川原 CL、福岡 SCL、鎗水、間ノ瀬、國分、田中(静)、高森、  
佐賀労山：山口・今泉、あしび山の会：田中

(10名)

(行程) (8/26) 19:00 西諫早駅～金立 PA～筑紫野バス停～直方 PA

(8/27) 08:30 松本 IC～9:45/12:10「無言館」～15:05/15:20 猿倉荘～16:20 白馬尻小屋

(8/28) 06:00 白馬尻小屋～08:40 葱平～10:05 村営白馬岳頂上宿舎～11:35 白馬岳～  
12:20 白馬岳頂上宿舎

(8/29) 05:00 白馬岳頂上宿舎～8:30 天狗山荘～9:05 天狗の頭～11:15 不帰一峰の頭～  
12:30 不帰二峰北峰～12:50 不帰二峰南峰～12:55 不帰三峰～13:45 唐松岳～  
14:10 唐松岳頂上山荘

(8/30) 06:00 唐松岳頂上山荘～07:50 八方池～09:00 八方池山荘～13:20 ちひろ美術館

(8/31) 08:30 ペンション樹里家～(9/1) 00:06 西諫早着

### 日本一の難所に行く

～白馬から唐松岳～

白馬から唐松岳までと言えば、日本でこれほど難しいルートはない。

当初の計画、白馬から鹿島槍ヶ岳の縦走と言えば、名実ともに日本一の難所である。

8月27日の午後4時過ぎに、一泊目の白馬尻の小屋に着き

28日06:00 白馬大雪渓へ向う。

直前の豪雨で、荒れに荒れた雪渓の大半は通過不能で、道なき道、雪渓の淵に着けられた踏み跡を登り体力を浪費させられた。

10:00 過ぎに村営白馬山荘に着き、更に天狗山荘へと思ったものの、明日の為に長時間の休養を摂ることにして、白馬岳山頂を往復して、昼過ぎからゆっくり過ごす。入口に「労山優待」のステッカーが貼ってあるこの小屋は、建屋も明るく職員も親切で感じが良かった。

29日朝食弁当を済ませ5:00 出発。本隊は杓子岳～白馬鐘經由、支隊は巻道を天狗山荘を目標に進む。

不帰ノ嶮へ入り、4時間にわたる険阻な岩場との全身を使った格闘の連続になった。

一峰を難なく過ぎ、二峰にかかると、はるかに見上げ、見下ろす程に高い岩場の上り下りを、各メンバーは危なげなく取りついて進んでいく。13:45 唐松岳に着くまで気の抜けない岩場の連続である。14:10 唐松山荘に着く。

メンバー全員よく耐え抜いたものである。これ程の難所の連続で疲れが残らぬはずはないが、みんなの表情に翳りは見えなかった。疲れてはいても自信にはなるだろう。





しかし、これからのアルプス山行を考えれば、長崎の登山者は2時間前後で山頂に達すると言う、短時間山行に体が慣れていて長時間山行になれてないかも知れない。長時間山行に対応できる登山を検討しても良い。



夜半から風の音が強くなり、時折小屋が揺れる。雨が窓を打つ。明日通る稜線は雨交じりの強風が吹き荒れているだろう。

30日、山荘は霧雨に閉ざされていた。視界が利かず相変わらずの強風である。八峰キレットへのルートは危険と判断。これから先の計画を変更し八方尾根へ下ることにした。

リフト、テレキャビンを乗り継ぎ9:00には白馬村に着くと神城のペンション村で「樹里家」に落ち着き、近くの温泉で汗を流す。午後、ちひろ美術館と山岳博物館、お土産屋へ。

行き帰りマイクロバスを利用したの計画で行動範囲も広く、白馬に登る前日は上田市の「無言館」にも足を運ぶ。登山と美術館を巡る山旅になる。

運転された平尾社長さん、井上さん有難うございました。

登山メンバー、よく頑張りました、自信を持って良いですね。お疲れ様でした。

(川原 記)

### 8/27(火) 無言館～白馬尻

山の中腹に白い無言館が、ドアを開けると中は暗く無言館の表紙と言える日高安妙の「裸婦」が入り口にあり各自見学、デッサン館はデッサンをドームの天井に貼り付け異様な雰囲気であった。

パノラマロードを一路白馬へ14:30八方より林道を猿倉へ、シーズンオフで車は少なく水を補給し15:20出発。林道へ出たところで衣服調整、ペースの速さに汗をかきTシャツ1枚になり槍分岐を過ぎ、ペースは速いままで汗は出るに任せ付いて行くのがやっとなりで、ストックを取り出したところはもう白馬尻だ。



山小屋は2階の梁で頭を打つ人もあったが貸しきり状態で快適であった。

(間ノ瀬 記)

### 8/28(水) 白馬大雪渓～白馬岳

白馬尻小屋を6時00分に出発、体調は良い、緩やかな道を登って行くと15分で河原状の広場に出た。ここが大雪渓の入口で、アイゼンを付ける場所ですが、私達は着けずに登ることに。

少し進むと、雪渓の一部が通行止めに。白馬にも大雨がふり、クレバスや石が流れ込むなど、雪渓の状態が悪く危険なので、迂回路を歩くことに、途中からまた雪渓に入ることに、ルートを外さないように、また落石もあるので上部を確認しながら慎重に登る。別のパーティーが私の前に石を落とすが、ラクセキーと言うだけで済みませんの一言



もない。

次第に傾斜が増してきつくなる、大雪溪が終り葱平へ取り付く、この付近は落石の危険が高  
いので、きついが休まずに進む。

白馬岳側の斜面に取り付き、山腹を横切るように行き、水量豊富な小沢を渡ると、葱平の急  
登になる、花を見ながらジグザグを繰り返しながら登って行く、きついが花が辛さを慰めてく  
れる。

左側に杓子岳の岩稜が鋭く尖って、男性的な山容が印象的でした。

避難小屋があり、そこを過ぎると広い道になり傾斜も緩くなったのですが、苦しい道でした。

しかし道の両側には、お花畑が広がっていてとても綺麗でした。

村営頂上宿舎に 11 時 20 分着

(福岡 記)

白馬尻から 4 時間黙々と細った雪溪を上り続けて白  
馬岳頂上宿舎に着いた。

白馬岳頂上宿舎でチェックインし空荷で白馬岳へ向  
った、お花畑が続く。途中松沢貞逸翁が 100 年前に創  
立した白馬山荘を通る。ガスに包まれた中を 40 分上り、  
山岳番組でお馴染みの白馬岳方位盤が見えてきた。残念  
ながらガスで景色は見えないが、山肌は長野県側はスパ  
ッと切れ落ち、富山県側はなだらかである。この理由は  
8/30 信濃大町の山岳博物館で分った。



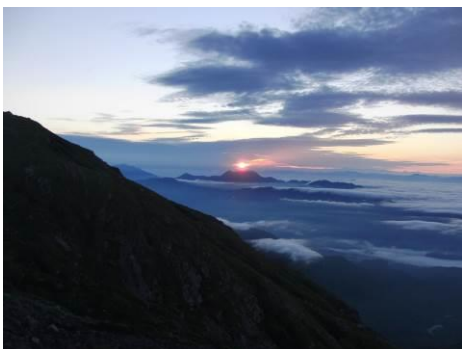
下山中這松の中にライチョウを見つけ、オイこっち向けなどと言って皆シャッターを切っ  
ていたが、ライチョウには通じただろうか？

12:30 宿舎に戻り夕食まで長〜い休憩に入る。これで温泉があったら言うことなし。

ところで雪溪のスプーンカットは何故できるのだろうか？

(鎗水 記)

## 8/29(木) 白馬から不帰ノ嶮を超える



AM3:50 起床。朝食代りのお弁当を食べる。AM5:00 入念  
な準備体操を行って出発。

まだ明けきってない稜線道は富山側から吹き上がって  
くる風が冷たく、肌寒い位だった。

昨日の稜線は終日ガスに  
覆われていて、白馬岳山頂  
もガスの中だったが、本日  
は遮るものもなく快晴で、

見渡す限りの稜線は素晴らしい山並みを連ねていた。

本日のコースは不帰キレットを越して唐松岳頂上山荘ま  
どとなっている。

AM5:20 オレンジ色に輝く太陽が昇ってきた。



杓子岳から白馬鑓ヶ岳へと登ったり下ったりしつつ、天狗山荘着。

山荘のあるあたりは天狗平と呼ばれ、お花畑になっている。ウルップ草がまだ咲き残っていた。それに、登山道の両側にピンク色の駒草もまだ咲いていた。おまけにアサギマダラが稜線に吹き上げる気流に乗って2匹舞っていた。

穏やかに楽しんだのもここらあたり迄。AM9:10 天狗の頭を過ぎて、いよいよ天狗の大下りの入口に着く。AM9:40 ここで、ヘルメットを被りハーネスを付けた。不帰キレットの最低鞍部まで約300メートル程一気に急下降となる。クサリを頼りに下りはじめ、後は狭いザラ道を弾みで滑らない様に確実に一歩一歩下る。やっと最低鞍部着。

ホッとする間もなく、目の前に不帰キレットが聳えていた。

(國分 記)

今回の山行で私が最も気になっていたルートが不帰ノ剣でした。名称がなんともイヤな感じですが。でも晴天に救われました。天狗山荘まで周りの風景を楽しみながら歩いた(とは言え、登り苦手な私はそれまでもキツカッター)。

いよいよ不帰ノ剣を前にして気がひきしまる。鎖を持って進んでる人が小さく見える。

ヘルメット、ハーネスを装着して、いざ出発。トップの国分さんの的確なアドバイスを聞きながら心の中で「集中 集中！」と言い聞かせ、三点確保で一歩一歩鎖場、梯子を行く。三峰の中で二峰が一番厳しいとの事、無事全てを下り改めて振り返ってみた。その威容によくぞ無事に歩いたと思った。唐松岳までもう一登り、頂上に着いた時の風の心地よさ・・・360°の絶景、空は青く・・・最高の気分でした。小さく可憐な花々、緑織りなす山々の美しさが疲れた体を癒してくれました。男性陣の優しさにもふれた山でした。有難うございました。

(高森 記)



### 8/30 唐松岳頂上宿舎～牛首～第1ケルン～ゴンドラ

台風の影響で昨夜から雨風の音がしきり。ここまで来たら最後まで登りたい気持ちと、昨日の疲れを考えると自信ない。そんな揺れる気持ちで迎えた朝。天候の回復は望めそうもないとリーダー達が検討の結果、八方尾根から下山する事になり唐松岳宿舎を後にした。しばらくは強風とガスの中を下るが、その後時々明るくなる日差しが皮肉だ。第3ケルン、八方池、第1ケルンと整備された道を下る。ゴンドラで八方駅に降りると待っていたバスに乗り、荷物をペンションに降ろしてまずは温泉へ。

4日ぶりのお風呂でサッパリしたら「安曇野ちひろ美術館」「大町山岳博物館」を見学した。夜は桑原さんを交えての夕食。3年前七倉山荘でお会いした時と変わりなく若い。美味しい酒と食事と歌で楽しかった。今回、天狗の大下り、不帰ノ剣を無事完遂出来たのは、日頃の川原さん



の指導があったからと思う。ただ長丁場の訓練不足で今迄で最もばてたアルプスだったと反省した。来年リベンジの話が出たが挑戦出来るだろうか？国分さん先頭で色々とお疲れ様でした。皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

(田中 静香記)

### 佐賀労山 山口氏より寄稿

昭和 51 年夏に登った、御嶽山、北岳以来のアルプスに足を踏み入れた 8 月 27 日。オレンジクラブの皆さんと総勢 10 名で猿倉荘前で長旅のバスよりおりる。

登山靴、リュック等を身に纏い、縦走開始だ。初体験に近い感慨を感じる。初心者のつもりで、皆のペースに合わせてついて行こうと殊勝な心持ちであったが、すぐにいつもの慣れたペースで進む。1 時間余りで白馬尻小屋に到着し、リュックを下ろしてひと息つく。旅の始め同様に、馴染んでくる。目前には、大雪溪の最下部とその溶けて流れる(激流)轟音が前途を暗示するかのようだ。一晩の雑魚寝も新鮮であったが、轟音に終夜支配され、熟睡は果たせぬ。



翌早朝、出発前に山ガールと言葉を交わして楽しむ。アルプスには若い人が散見されて楽しみが増す。愈々、大雪溪を登るが、アイゼンは無しだ。23 日の雨による土石流で、イメージの、白く広がる雪溪は無く、自然の脅威を実感する。幾度かの休憩と草花の撮影を繰り返して、白馬頂上山荘に着く。昼食後、リュックを預けて白馬岳登頂。ガスの為、視界は悪く、記念撮影後に下山するが、ライチョウに出会えたのはラッキーだった。

夕食の前後に時間がたっぷり有り、明日に備えて、ロープワークの確認、指導を受ける。

杓子岳、鑓ヶ岳、天狗の頭、天狗の大下りと晴天下の景色を満喫するが、岩稜線は歩きにくく、疲れる。途中、「坂の上の雲」の冒頭シーンと同じ光景が眼前に現れる。撮影者の意図に得心しつつ、難所の”不帰の嶮”を前に立ち止まる。ルートは？どうやって登るのか？心配無用であった。先頭から難なく登って行く。険しく切り立った岩壁沿いに絶妙にルートと鎖、橋(梯子を横にした)を整備した先達に感謝し、反面、“無ければ登らなくて済むのに”“神の与えた試練だ”とか呟く。ここが今回のメインであり、全員無事に踏破して良かったと安堵する。

不帰 3 峰、唐松岳と順調にすすみ、唐松岳頂上山荘でゆっくり寛ぎ、縦走の終わりとなる。

天候故に止むをえぬが、天候の判断の大事さを学ぶ良い経験となった。翌早朝の下山ルートの中での晴れ間の景色、草花等多くの楽しみがあり、縦走で得た収穫の機会を頂いたオレンジクラブの皆さんに感謝します。

### 佐賀労山 今泉さんより寄稿

は〜い😊遅くなってすいません。一口感想を書かねばと思いつつ、二百字から四百字以内に納め、ただ楽しかったではいけないと言われたような事をつらつら考え



ていると、もう一週間もたってしまいました。催促のメールに怯え寝たふりを……。

でも、実際楽しかったとしか言えない山行でした。ゆっくり進んでもらったので、景色や花々を堪能できました。天気だけはどうしようもありませんが、山の神が力をつけて”出直せ！”と言っているような気がしました。オレンジの方々に甘えて同行させていただいた事、感謝々々です。😌

### あしび山の会 田中氏より寄稿

昨日(8/28)はガスで白馬岳山頂からは何も見えなかった。

4時に目が覚め、外に出て天を仰ぐと、頭上にオリオン座が見えていた。

今日(8/29)は不帰の嶮を通らなければならない、この様子なら雨の中を進まなくてよさそう。白馬岳頂上宿舎を5時半出発、雲海で白馬村は見えないが、日の出に近づくと八ヶ岳方向に遠く富士山が見えた。

昨日大雪渓を登った疲労が溜っているはずだが、みんな黙々と歩く。

気温は9度、西の方から冷たい風を受けながら杓子岳へ、頂上から振り返ると富山湾と能登半島が見える。右前方に釧岳、立山、黒四ダム、前方に鹿島槍ヶ岳、遠くには槍ヶ岳、穂高連峰が見え北アルプスの雄大さに感動。



白馬鎚ヶ岳も順調に通過したが、天狗の大下りを下った後は、膝が悲鳴をあげていた。

不帰の嶮では、どこをどうやって登るのだろうかと思ったが、もう後戻りはできない、三点確保で慎重に皆の後をついて行き無事通過できた。皆さんどうも有難うございました。

今回、台風の影響で唐松岳までしか行けなかったが、次回、この続きを歩いて見たいと思ったと同時に、もっと、持久力や技術力を養う必要があると感じた。



タイツリオウギとクルマユリ



トリカブト

## 阿蘇の山 一ノ峰(858m)・二ノ峰(870m)

(参加者) 福岡、川原、中須賀、佐原、岩永、林(孝)、林田、森、山口、(9名)

(行程) 西諫早駅 6:30— 登山口 9:30— 一ノ峰着 10:50— 二の峰着 11:10  
諫早着 18:30

(感想) 今回の山行は前回の冠ヶ岳と同じ南阿蘇の外輪山 一ノ峰、二ノ峰へ野草鑑賞登山。天気予報では午後はどこによっては雷もとのことで帰るまでは降りませんようにと祈りながら出発。

標高 600m の登山口では幸いに空も晴れて緑一色の草原が素晴らしい。

やさしい起伏の高原に萩のピンクの花、ふじばかま、松虫草、女郎花、葛の花、すすき、等が膝丈くらいの優しさで咲いている。

一ノ峰、二ノ峰はたこやきを大きくしてころ、ころと転がしたような峰がポコリ、ポコリと点在。二ノ峰頂上からの眺望がすばらしい。

すっきりと晴れていたら涌蓋山、八方ヶ岳、金峰山、有明海を挟んで雲仙も見えるだろうとのこと。

昼食をすまして防火帯を鉄塔まで歩く。外輪壁まで歩く予定だったらしいがどうやら空の雲行きがあやしくなり下山することに。

草原の中を薄をかきわけながら車道まで歩く。草原の中を流れる水もさらさらと冷たく正に身も心も洗われるような鑑賞登山でした。帰りの道では鹿も現われ見送ってくれました。帰りのバスのなかでは秋の七草の話題になり萩、すすき、桔梗、撫子、女郎花、ふじばかま、くずの花が七草だそうです。

今回の山行ではなでしこ、ききょうの他は存分に見ることができました。

適期に計画してもらったことに感謝します。

皆さんお疲れさんでした。

阿蘇高原 あきの七草 ほしいまま

(山口 記・文中写真・中須賀氏)





山ノ張涼  
はテをうよ  
夏でトロしい



白馬～不帰剣～唐松岳の軌跡



ウルップソウ



カワラナデシコ



ハクサンフウロ





**写真三点  
野中氏**

9月15日 6:24  
大村 鉢巻山より  
経ヶ岳を望む



7月20日 5:20 多良見町での朝焼け



9月15日 鉢巻山の白いヒガンバナ

おれんじニュースNo283	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013.9.25
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/">http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/</a>

こんにちは。  
 なんとか10月号を編集し  
 終えたところです。今月号  
 は県連の行事が沢山、案内  
 されています。ふるってこ  
 ちらもご参加ください。  
 また、今月も沢山の写真、  
 原稿をお寄せ下さってあ  
 りがとうございました。  
 感謝！感謝！山下